

## 理事長挨拶（2016年1月）

懸案でありました Journal of Pharmacological Sciences (JPS) と日本薬理学雑誌の二誌の委託先変更が既に完了し、平成 27 年 1 月から JPS は冊子体を廃止し全面電子ジャーナル化を行っています。これによる経費削減により、財政状況は好転しつつあります。これを契機として、学会の使命である薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与するため、学会活動の更なる活性化を目指すことを本年度の重点目標とします。

学術集会については、引き続き女性や若手研究者そして企業研究者の積極的な参画を促しつつ、活気あふれる学術集会を開催します。また、昨年度から中長期的な視点に立った年会のプログラム構成を企画する体制を開始しましたが、これを更に拡充して他学会所属の研究者にもアピールできる学術集会を目指して行きます。2 年後に控える第 18 回国際薬理学臨床薬理学会議 (WCP2018) の京都開催を、学会の更なる発展およびグローバル化の好機と捉え、これを成功させるための方策をとってまいります。具体的には、日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会との協力、国際薬理学連合 (IUPHAR) およびアジア・オセアニア各国との連携、昨年度合意された米国と英国の薬理学会との新たな連携の着実な実施と強化を進めてまいります。国際連携が重要な課題となっており、中長期的な視点からの対応ができるように体制を整えます。学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に尽力します。特に、国際情報発信強化助成金を用いた JPS の国際誌としてのレベルアップと学会ホームページの充実を一層進めてまいります。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 飯野 正光